



重厚感のある外壁が、1970年前後のスタイルをうかがわせる。室内と庭を連続させるためテラスを設けた

REFORM NOTE

形態	一戸建て
築年数	約40年 ※改装時
使用者	デザイン事務所
間取り	2世帯住宅→オフィス
床面積	154.9㎡



1階の和室にあった障子は現オフィスで再利用し佇まいを引き継いでいる

新 宿新都心に程近いエリアに残る、古い住宅街に建つ築40年の木造2階建て。もとは二世帯住宅だったというこの家を、自身が経営するデザイン事務所のオフィスにリノベーションした藤井・華丸・智裕さん。この物件を内見したとき、藤井さんは住宅への光の射し込み方向と風の流れが理想的で、とても居心地が良かったと振り返る。南側に庭先があり、北側の隣接地は小学校の運動場。窮屈のない立地条件だったが、その一方で、建物内部はプライベートを守るため、各スペースは壁と床でしっかりと分断されていた。リノベーション後のエントランスで目にするのは、1階はおろか2階までが見渡せる大空間。2階の床を払ってつくり出した吹き抜けが屋根裏までのびており、縦の広がりを感じさせる。また、部屋を仕切る内壁はモルタルの腰壁、吹き抜け回りの廊下に関しては鉄筋を張った柵だ。これらによりすべてのスペースの視線が通い、南の庭から2階まで、空間に横の連続性も生み出している。リノベーション後の空間のポイントは、天井板を全面的に撤去し、梁や柱を大胆に現しにしている点だ。太さ30センチ以上の大梁は、40年前



バーカウンターのように仕上げたキッチン。白いレンガ調の壁と黒皮鉄のベンチの対比が印象的な空間



エントランスに設置されていた明かり取りの飾りガラスの壁はそのまま残

東京都渋谷区 / U-MA

昭和風情のある
築40年の木造家屋で
新旧のミックスを楽しむ

レトロなだけじゃ物足りない。古さという「味」にビビッドなスパイスを加えて創る、ダイナミックなリノベーション空間。

Text_Kenichi Hirai
Photograph_Kouji Yaginuma





〈左の写真〉

左・貸オフィスとして機能する2階の各スペースは、内壁や間取りによってゆるやかに仕切っている

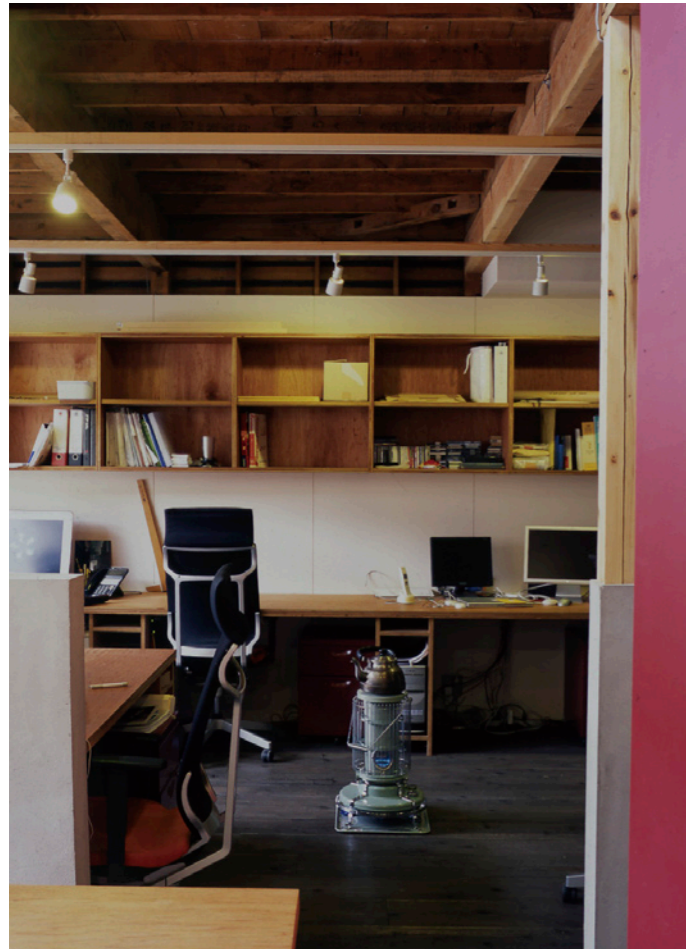
右・もともと良かった採光条件を最大限に活かした室内には自然光があふれる。サボテンも日光浴

「内壁はほとんど取り除きましたが、40年程前に建てられた注文住宅は造りがしっかりとしているので、構造材はできるだけ流用しました。うまく現しにすれば年季の入った古材のよさが生きてきます」

「古いものを古いまま残すだけではひねりがない。宮田氏は、オフィスとしてのキャラクターも考慮して、鉄やモルタルなどの新しい素材を空間に投入。これは構造材の補強も兼ねている。また、主張が強い古材の印象を緩和するため、黒や白、ビビットな赤色を適所に配し、空間にメリハリをつけた。」

「古いものと新しいものの均衡がよく、空間に伸びがあるので仕事の発想も膨らみます。しかし、家のように居心地が良過ぎて何日も寝泊りしてしまうんです（笑）」（藤井さん）

もともとこの建物を持つポテンシャルをどう活かすかということも、リノベーションの醍醐味の一つだろう。



棚やテーブルは12mmのベニヤ板を3枚合わせ、クリアラックで仕上げたもので統一



離れたスペースは内側の造作をすべて撤去し、土間と壁を白く仕上げ撮影スタジオに



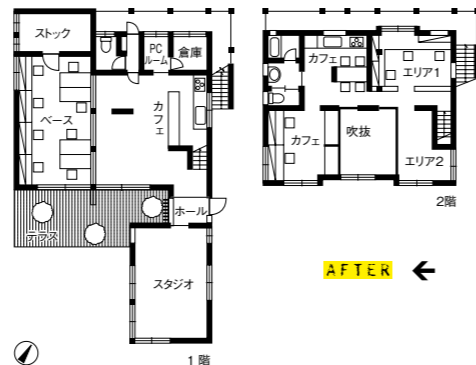
鉄とモルタル、そして木材をバランスよく取り入れ、それぞれの素材感を活かした。広々としたスペースにするため内壁を腰壁にしている

物件名 U-MA
 所在地 東京都渋谷区本町
 建物規模 地上2階建て
 構造 木造
 築年数 築38年（改装時）
 床面積 1階91.2㎡、2階63.7㎡ 計154.9㎡
 設計 宮田一彦アトリエ 宮田一彦
 耐震補強 宮田一彦アトリエ
 設計期間 1.5ヶ月
 工事期間 2ヶ月
 竣工 2007年
 賃料 30万円（月）
 総工費 800万円
 （含造作家具+エアコン・別設計料+消費税）

内部仕上げ
 〈床〉杉無垢板+OS
 〈壁〉ラワン合板+AEP
 〈天井〉既存現し

設備システム
 〈新規衛生陶器〉TOTO

株式会社U-MA（ウーマ）
 TEL 03-6826-5941
 http://www.u-ma.jp/

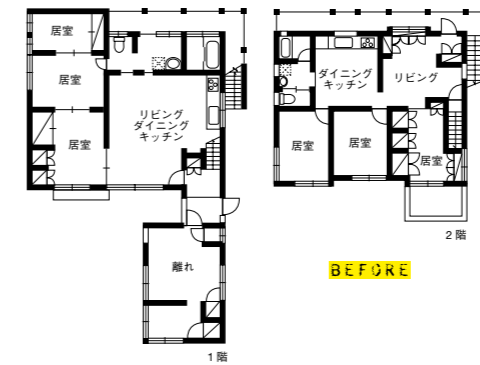


Kazuhiko Miyata

1966年 東京都生まれ。山下和正建築研究所を経て'97年一級建築士事務所 宮田一彦アトリエ設立。住宅リノベーション、飲食店の設計を軸に活動。



一級建築士事務所 宮田一彦アトリエ
 TEL 03-5354-3439
 E-mail : miyata@m-atelier.net



黒皮鉄で作ったラック。表面が削れた部分もそのまま残し素材感を全面に出して